

# 参考資料

## 参考資料

### ハローワークにおける職業分類のあり方に関するヒアリング調査

訪問者	上市 貞満（労働政策研究・研修機構統括研究員）
訪問日	別途調整
時間	2時間程度
対象者	求人部門及び職業相談部門の統括職業指導官

#### ○ヒアリングの目的

職業安定機関における求人・求職の職種区分には「厚生労働省編職業分類（平成23年）」が用いられていますが、作成から5年が経過し、この間の産業構造、職業構造の変化に伴い、求人・求職者の求める職種との乖離が生じている分野もみられます。また、民間では事業者ごとに厚生労働省編職業分類と異なる独自の職業分類を使用していますが、近年官民の求人情報を一括検索して提供する求人情報サイトが台頭し、職業分類の共通化のメリットが高まっています。このため、当機構では、厚生労働省の要請を受け、ハローワークにおける職業分類の運用の現状や課題、改訂に向けての意見、要望等を明らかにするため、本ヒアリングを実施することといたしました。ご多用中恐縮ですが、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

#### 1. 基本資料の収集

- ・管内労働市場に関するデータ
- ・職業別求人・求職バランスシート（可能ならば、平成27年度及び直近の月）
- ・求人情報提供端末の検索項目（職種）の設定状況（別紙参照）

#### 2. ヒアリング項目

##### 〔求人部門〕

##### ① 管内求人の動向

Q 恒常的に求人の多い職種

A

--	--

Q 近年求人が増えている職種

A

--	--

Q 求人申込み時にみられる求人者の意識・行動の変化（あれば）

A

--	--

##### ② 「職種」欄の記載方法

Q 求人者の記載のままか？ 記載方法の助言をするか？ 職種名に続いて( )書きで雇用形態（正社員など）、店舗名、就業場所、急募等を書いてある求人もあるが、これは助言によるものか？

A

--

## ③ 「仕事の内容」欄の記載方法

Q 求人者の記載のままか？ 記載方法の助言をするか？ JILPT「職業紹介用職種別チェックポイント（5分冊）」（2007年～2012年）は窓口でどの程度活用されているか？

A

--

Q 仕事遂行のためにはスキルが必要になるが、求人者は求めるスキルのレベルを求人申込書に記載しようとしているか？ いるとすれば、どのような表現によって記載しているか？（例：「仕事の内容欄」に〇〇の経験者を希望、「必要な経験等欄」に〇〇に関する経験△年以上と記載など）あるいはスキルは別途応募があった時点で、面接や職務経歴書等の書類で確認しようと割り切っているか？

A

--

## ④ 職業分類コードの記載方法

Q 職業分類表に設定されている職業が細かすぎて、求人職種が複数の職業に該当するケースにはどのようなものがあるか？ そのような場合にはどのように対処しているか？

A

--

Q 求人者が比較的多いにもかかわらず、当該職業が職業分類表に設定されていないケースにはどのようなものがあるか？ そのようなケースは、雑多項目（分類番号末尾99）に位置づけることが多いと思われるが、その情報を職業相談部門と共有しているか？

A

--

Q そもそもどの職業分類に位置づけたらよいか分からないケースにはどのようなものがあるか？（例：ア.職業分類の体系がわかりにくいので格付けできない。イ.求人事業所が一般的に使用している職業名（企画営業、社内SE、データサイエンティストなど）が職業分類表にない。ウ.求人職種の直感的な印象と職業分類の位置づけが違っている。）そのような求人職種の職業分類上の位置づけは最終的にどのように決定しているか？

A

--

Q 求人申込書の職業分類コードは細分類（5桁）で記入することとされており、補足的に第2、第3の細分類を記入できるが、その程度利用しているか？ また、記入した職業分類コードが適切であるか、第三者がチェックする仕組みはあるか？

A

⑤ Web サイト上で見たい求人情報に効率的に辿り着けるための工夫

Q ハローワークの求人は基本的に Web サイトで提供されており、求職者が見たい情報に効率的に辿り着けるためには、検索によく使われるキーワードを想定してページ(求人票)に反映させておくことなどが重要である。こうした観点から、よく使われるキーワードを求人票に盛り込むなど工夫していることがあるか？

A

⑥ その他

Q 以上の他、現行の職業分類で使い勝手が良くないと思う点はあるか？

A

Q ご意見、ご要望などありますか？

A

〔職業相談部門〕

2. ヒアリング項目

① 求職者の動向

Q 恒常的に求職者の希望が多い職業

A

Q 近年求職者の希望が増えている職業

A

Q 求職申込み時にみられる求職者の意識・行動の変化（あれば）

A

② 「希望する仕事」欄の記載方法

Q 求職者の記載のままか？ 記載方法の助言をするか？ 後に職業分類番号を付与する観点から記載内容を確認しているか？ その際、JILPT「職業紹介用職種別チェックポイント（5分冊）」（2007年～2012年）は窓口でどの程度活用されているか？

A

③ 職業分類コードの記載方法

Q 求職者の希望する仕事に基づいて職業分類番号を付与するとき、現行の分類体系では不便を感じる点はあるか？（例：民間求人情報サイトで一般的に使用してされている職業分野（例：クリエイティブ系など）、職業名（例：企画営業、社内SE、データサイエンティストなど）が職業分類表にない。）

A

Q 職業分類番号はできるだけ細分類（5桁）で記入し、求職者の職業選択の方向が定まっていない場合などは小分類でも可とされているが、小分類を記入する場合はどの程度あるか？ またそのようなことが多いのはどのような職業か？

A

Q 求人情報提供端末の検索項目の職種の設定は、どのような考え方に基づいて設定しているか？ 近隣のハローワークの設定を参考にしたりするか？ 管内の求人の動向をもとに設定すると、他所の求人の検索に不便になることはないか？ 設定の見直しを行う場合は、どのようなことをきっかけにどの程度の頻度で行っているか？

A

Q 求人情報提供端末やハローワークインターネットサービスでは、求職者は中分類レベルまで選択できるが、求人・求職のマッチングにおいて細分類はどのようなケースで利用されているか？ 小分類の項目をある程度増やしたり、フリーワード検索と組み合わせたりすることで細分類の代替は可能か？

A

## ④ 産業分類の活用状況

Q 特定の職業ではなく、特定の業界を対象に求職活動をする人は、どのような業界に多いか？（例：観光、ホテル、ブライダルなど） そのような人は求人検索をどのように行っているか？

A

--

## ⑤ フリーワードの活用状況

Q フリーワードがよく使われるのはどのようなケースか？（例：〇〇の職業については△△というフリーワードがよく使われるなど） フリーワードを用いて求人を検索する求職者はどの程度いるか？ 多く使われるフリーワードはどのようなものか？ 特定の会社名がフリーワードで使われることはどの程度あるか？

A

--

## ⑥ 求職者からよく尋ねられる職業情報の内容

Q よく尋ねられるのは、どのような職業に関するどのようなことか？（例：営業の職業について、法人営業、個人営業、ルート営業、内勤営業の区分で探せないかなど）

A

--

## ⑦ その他

Q 以上の他、現行の職業分類で使い勝手が良くないと思う点はあるか？

A

--

Q ご意見、ご要望などありますか？

A

--

---

JILPT 資料シリーズ No.191

官・民・諸外国の職業分類等の現状と比較

発行年月日 2017年3月31日

編集・発行 独立行政法人 労働政策研究・研修機構

〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23

(照会先) 研究調整部研究調整課 TEL:03-5991-5104

印刷・製本 有限会社 太平印刷

---

©2017 JILPT Printed in Japan

\* 資料シリーズ全文はホームページで提供しております。(URL:<http://www.jil.go.jp/>)